

モニタリング実施報告書

平成30年度（定期）（本市）モニタリング実施報告書

施設名	那覇市繁多川公民館
所在地	那覇市繁多川4丁目1番38号
指定管理者	名称 特定非営利活動法人 1万人井戸端会議 代表者 代表理事 南 信乃介 住所 那覇市繁多川4丁目1番35-301号 宮城荘B 電話 (098) 917-3448
指定期間	平成30年4月1日～平成33年3月31日（3年度間）
モニタリングの実施方針・方法等	・本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を「日報及び月報」、「事業報告書」、実地調査、利用者アンケート調査、指定管理者へのヒヤリング等により把握しました。 ・業務履行等モニタリングシート等を確認した結果を「モニタリングの総合コメント」、「今後の業務改善に向けた方針」に記載しました。
担当部課（問合せ先）	那覇市教育委員会生涯学習部 生涯学習課 担当：久場 TEL：098-917-3502 内線2597 E-mail：e-s-sya001@neo.city.naha.okinawa.jp

モニタリング総合コメント（本市）

民間のノウハウを最大限に活かし、学校や地域自治会、民生委員や地域包括支援センター、近隣の大学などの専門機関、企業等とも連携し、幅広い地域と世代に即した講座・事業を展開するなど、継続して安定した管理運営を行っている。

平成30年度の特徴的な取組みとしては、地域住民を中心に、地域課題を参加者が協働で調査しワークショップを重ねてアクションプランを作成する「地域計画事業」があげられる。同事業をはじめ、地域住民が同公民館の講座や事業へ参加を通して、地域のことを「学ぶ」だけでなく、地域課題の可視化と共有により、課題の改善に向けて「集い」「繋がる」機会としても評価できる取組みである。

また、地域で、様々な分野で優れた知識や技能等を有する人材を「すぐりむん」として認定する取組みは、当事者や地域住民の、地域に対する誇りや愛着を引出し、自治や協働に対する意識の醸成にも繋がる好事例となっている。

同公民館は、民間のノウハウを十分に活用し、地域の資源や課題を見える化し、その情報を地域内で共有する役割も担っており、地域の生涯学習の拠点だけでなく、自治や協働の活動に欠かせない存在となっていることは他の公民館の模範にもなる。

また、職員各自が高い意識を持ち、内部研修や県内外の研修に積極的に参加し研鑽に努めていることや、各職員が地域内外で築いたネットワークや信頼関係が、公民館の管理運営や魅力的な事業の企画等に活かされていることも評価に値する。

今後の業務改善等に向けた方針（本市）

1 改善・是正事項

一部提出の遅れがあった報告書類について、期限内の提出を遵守できるよう改善に努めること。

2 課題事項

若い世代が公民館を介して地域と繋がるために、広報の手法を含めた仕組みづくりと、同世代に対し、現在、地域活動に積極的に関わっている方々のノウハウやネットワーク等をいかに継承していくかが課題と考えられる。

なお、前年度課題としてあげられた、災害時や事件事故など緊急事態対応や、不審者対応、苦情対応等をまとめた、公民館独自の危機管理マニュアルの策定については、令和元年度上半期中には策定される見込みである。

1 基本的考え方及び管理体制

- ①社会教育の視点で地域課題解決や地域活性化に寄与する事業が展開できた。
- ②地域住民から外部理事、連携団体からアンケートや会議をとおしてクリアで健全な公民館運営ができた。
- ③職員体制も予定通り配置することができた。
- ④個人情報保護、情報公開も市の規定に沿って実施することができた。
- ⑤危機管理体制は利用団体と連携しAED講習実施を行った。特に大きな事件事故、不審者対応、苦情対応でトラブルはなかった。

2 公の施設のサービス向上及び経費削減

- ①節電、節水をスタッフや利用者へ共有し行い経費節減に努めている。
- ②地域人材の活用により、社会教育の場としつつ、事業規模に対して環境美化や事業コスト、人件費コストが抑えられている。
- ③利用者アンケート結果に基づき、快適な施設利用の改善を進めている。

3 団体の概要及び管理運営能力（経営状態）

- ①団体としては、近隣に学童クラブを運営し地域で法人の活動の幅が広がっている
- ②那覇市協働大学院運営を行うなど市の協働のまちづくりを推進している。
- ③収支計画に沿った形で指定管理業務、法人業務が遂行できた。
- ④多様化した事業には税理士や毎月の理事会でチェックし運営している。